

第3学年〇組 社会科学学習指導案

指導者： 片岡 英樹

1 単元 民主政治と政治参加（地方の政治と自治）

2 単元について

(1) 生徒の実態

(調査生徒数 30人)

① 地域の向上に自発的に取り組もうと思いますか。 ・非常に思う 2人 ・思う 13人 ・あまり思わない 11人 ・思わない 4人
② 地方公共団体の大切さを実感していますか。 ・非常にしている 3人 ・実感している 9人 ・あまりしていない 13人 ・していない 5人
③ 地方自治に貢献したいと思いますか。 ・非常に思う 1人 ・思う 10人 ・あまり思わない 14人 ・思わない 5人

本学級の生徒は、社会科の授業において落ち着いた学習態度で取り組むことができる。既習事項の確認テストでは、概ね理解している生徒が多い。反面、社会的事象について自分の考えを表現することについて苦手意識が高い。特に、根拠に基づき説明したり、資料から読み取り、自分の価値観を基に社会的事象を考察し、表現したりすることは不得意である生徒が多い。また、「私個人の力で世の中は変えることができるか。」という問いには30%ができると考えている。しかし、ほとんどの生徒は、難しいと考えている実態がある。そこで、班での学び合いの場を設定することによって、様々な考えを参考に自分の考えを深める活動を行っていききたい。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容(3)イ「民主政治と政治参加」について扱っている。そこでは、地方自治は民主政治の原点であり、「民主主義の学校」と言われている。地方自治は、住民参加の基で身近な地域の課題解決を目指すものであり、生徒にとって最も身近に社会に参画できる存在である。自分が住んでいる県や市という地方公共団体がどのような仕事をしているのか、また、どのような課題をかかえているのか、調べ、話し合うことで、地方自治が自分の日常生活と関わりが深く、大切な存在であることに気付くことができる素材である。

そこで、多くの具体的事例を通して地方分権の動きや特色あるまちづくりの取り組み等を学ぶ中で、地方自治とは、自治体等からの指示で統制される存在でなく、市民を中心に住民参加型でまちづくりが進められることが基本であることに気付かせたい。そして、自分たちの要望を、間近に迫る市長選の公約を通して考える活動を取り入れ、住民として具体的に地方自治に関わるために必要な資質を育てる機会とする。その際、実際に中学生の意見が地方政治に取り入れられた例を挙げ、学習活動の中から出てきた提案を検討することを通して、政治への参画意識を一層高めていくことができるように工夫したい。また、提案場面を言語活動の一環と捉えることで、社会参画と言語活動の両方の目的を果たしていききたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、地方自治の学習を通して、将来の主権者の一人としての自覚を育て、豊かな地域づくりのために自分たちの住むまちをどのようにしていきたいかに関心をもち、意欲的に今後のまちづくりに参画しようとする態度を育てていきたい。社会科を単に科学的な社会認識力を育成する教科としてではなく、今後の自らの在り方を考えさせる学びの機会としたい。そのために実際に地域の現状を調べ、問題を把握し、問題を分析し、地域をよりよくするためにはどのような取り組みが有効か、自分たちの考えを決定し、模擬市長選の公約との関連を図る場などを工夫する。また、個人で考えよりよい判断を行うために、事実に対して多面的・多角的に捉えるための話し合い活動による意見交換を行い、考えを更に深め、よりよい地方自治や今後の自分の在り方について考える態度を育てていきたい。

3 単元の目標

- 身近な具体的な事例を通して政治に関心を高め、主権者として積極的に政治に関わっていこうとする。
(社会的な事象への関心・意欲・態度)
- 選挙をはじめとする政治参加によって、よりよい民主政治が運営されていくことに気付かせ、良識ある主権者としての政治参加の在り方について考えたことを適切に表現することができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- 新聞記事などを活用し、現実の政治の動きを多面的・多角的にとらえることができる。
(資料活用の技能)
- 国会を中心とする日本の民主政治の仕組みや作られた背景や、地方自治の基本的な考え方や社会的課題の解決方法や、政治参加についての知識を身に付けることができる。
(社会的な事象についての知識・理解)

4 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
民主政治をよりよく運営していくためにはどのような仕組みが必要か、また、自分たちはどのようにかわっていけばよいか考えようとしている。	政治に関する様々な話題や課題について多面的・多角的に考察し、政治参加の在り方について考察し、その過程や結果を適切に表現している。	政治や社会の現状・課題に関する資料を収集・選択し、複数の資料を比較して読み取り、考察した結果を基に、図表などに適切にまとめることができる。	政治の仕組みについて、主権者や地域住民などの立場から理解し、その知識を身に付けている。 国民、住民の政治参加の重要性を理解している。

5 単元の指導計画（全22時間）

第1次	現代の民主政治	5時間
第2次	国の政治のしくみ	9時間
第3次	地方の政治と自治	8時間

時	主な学習活動	指導上の留意点（・）と評価基準（◇）
1	班ごとに神栖市の課題を分析する。 ① 地方自治のイメージをもつ。 ② 栖市の抱える課題について考える。 ③ 班ごとに重要課題について考える。 ④ 自分たちや大人に依頼することを分類する。	・川崎市の抱える課題を参考に神栖市の課題をイメージさせ、自分たちの体験や家族からの情報を基に、重要課題を選択させる。 ◇神栖市の課題について考え、意欲的に重要課題を決めようとしている。 (関心・意欲・態度 ワークシート, 観察)
2	神栖市の課題とその原因について掘り下げる。 ① 課題の原因は何か、更にその原因の原因は何かについて、個人やグループで考える。 ② グループごとに、全体に発表する。	・原因の背景を見付けるために、教科書や資料集を活用しながら、考察するように指示する。 ◇原因が起こる背景について、根拠を説明するための資料を適切に選択することができる。 (技能 ワークシート, 観察)
3	神栖市の課題とその原因を掘り下げ、神栖市のよいところを多く挙げる。 ① グループで課題への対策を考える。 ② 班が取り組む最大の課題について考える。 ③ 神栖市のよいところについて考える。	・神栖市の悪い点ばかりではなく、よい点に着目することで地域への愛着がもてるようにする。 ◇神栖市のよさを更に伸ばすために、最大の課題は何かについて考えている。 (思考・判断・表現 ワークシート, 観察)
4	課題に関する班の改善策を考える。 ① 前回選択した最大の課題についての改善策を考える(将来像, 問題点, 自分にできることなど) ② 各自で調べてくる内容について確認する。	・課題の改善策を具体的するために、班で取り組むように指示する。 ◇改善策について意欲的に話し合っている。 (関心・意欲・態度 観察, ワークシート)
5	各班から出た改善策について検討する。 ① 各自が集めてきた資料を基に、できる限り実現可能であり、かつ実効性のある改善策を検討する。 ② 各班に発表する練習を行う。	・グループで円滑な話し合いができるように、資料を用意するとともに、生徒にも準備するように助言する。 ◇改善策を修正するための資料を適切な選択している。 (技能 ワークシート, 観察)
6	発表内容の検討を行う。 ① 各班からの質問への対応について検討する。 ② 発表練習を行う。	・予想される質問を考えさせる。 ◇話す内容を厳選し、相手に伝わるように表現している。(思考・判断・表現 観察, ワークシート)
7 本時	発表・投票 ① 班の発表を基に神栖市の課題について確認する。 ② 候補者の政策について確認する。 ③ 今後自分でできること、他者に働きかけることについて考えをまとめる。	・検討する4つの観点について理解を深め、改善策の実現性について検討するように指示する。 ◇今後の社会参加に活かすために、地域づくりに関わる課題について、解決可能な改善策を検討している。 (思考・判断・表現 観察, ワークシート)
8	振り返り ① 政治参加、社会参加の機会が増えていることを知る。 ② 学習したことについて自己評価する。	・今までの学習をノートやワークシートを基に思い出し、振り返りができる場を設定する。 ◇よりよい地域づくりに貢献しようとしている。 (関心・意欲・態度 アンケート, 観察)

6 本時の学習

(1) 目標

- 今後の社会参加に活かすために、地域づくりに関わる課題について、解決可能な改善策を検討することができる。
(社会的な思考・判断・表現)

(2) 準備・資料

- ア 学習課題 イ タイムスケジュール表 ウ ワークシート
- エ 市長選の選挙公約について書かれた新聞（拡大版） オ 市長選の選挙公約について書かれた新聞（生徒用）

- (3) 研究主題（「かかわり」を大切に、「みえる」「わかる」子どもが育つ社会科学習の創造）との関わり
生徒たちが追究する中で、見え隠れしていた社会を支えている人々の思いや姿に触れ、人々を基点とした社会的事象のつながりが「みえる」、意図や意味、更には自分の在り方が「わかる」ようになると、「学習の対象」である地方自治との濃密な「かかわり」が生まれる教材である。

最終的に、これから自分でどうするのが「わかる」きっかけとするために、班での話し合いによる「かかわり」を大切に、「みえた」つながりをまとめて、自分の言葉で表現できるようにしたい。

(4) 本時の展開

	学習活動・内容	資料	指導上の留意点（・） 評価規準◇ 研究主題との関わり※
つかむ 10分	1 前時までの復習をする。		<ul style="list-style-type: none"> ・どのような点に気を付けて発表するか確認する。 ・神栖市の課題についても再確認する。
	2 本時の学習課題を確認する。	ア	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を明確に伝え、学習の見通しを立てさせる。
考える 20分	よりよい神栖市にするための改善策を検討し、今後の自分（たち）にできることを考えよう。		
	3 班ごとに発表し、評価、質問をする。 (1) 発表時間を決め、発表を行う。 (2) 各班の改善策について4つの観点から評価する。 (3) 解決可能な改善策になる理由について考える。	イ ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・班の時間担当と連携し、時間内に発表するよう指示する。 ・4項目を中心に、発表を聞くように助言する。 ・課題の切実性、実現可能性、課題への効果、実施に値するか4項目について提案を分析するように助言する。
深める 15分	4 市長選に出る候補者の政策と各班の提示した改善策を比較する。 (1) 政策についての疑問点を質問する。 (2) 自分たちの考え方との類似点、相違点共感すべき点について確認する。	エ オ	<ul style="list-style-type: none"> ◇地域づくりに関わる課題について、解決可能な改善策が検討することができたか。 (社会的な思考・判断・表現)
	5 振り返り (1) 今後自分たちができると他者に働きかけていくことについて考える。 (2) 代表生徒の意見を発表する。 (3) 次時の学習について知る。	ウ	<ul style="list-style-type: none"> ※各班が考えた神栖市の課題改善が今回の市長選で立候補した選挙公約に含まれていることを確認する。 ・(実際の) 市長選の選挙公約を見比べることで、そこにおける争点についても理解を深めさせるようにする。 ・本時の活動を通して、気付いたことをまとめる。
確かめる 5分			<ul style="list-style-type: none"> ◇今後の社会参加に活かすために、課題についてまとめることができたか。(社会的な思考・判断・表現) ※全体に振り返りの内容を発表させる。